

編集後記

(56巻 第8号 2010年8月)

報道によると、経済産業省は国内の医療機関が富裕層の外国人患者に高度な医療サービスを提供する「医療ツーリズム」の拡大を目指すという。確かにシンガポールやタイなどでは、ヨーロッパや中東から多くの富裕層の患者を受け入れ、観光業界をも巻き込んだ活動を推進していると聞いている。

この「物まね医療ツーリズム」が今の日本で可能なのだろうか。自国民に対する医療でさえ満足に供給できていないのに、どうして海外の患者を集めて医療提供する必要があるのか私にはわからない。どこで誰が海外の患者を治療するのだろう。経済産業省では、医師の偏在や医師不足はもう解決されたという認識なのだろうか。医療費抑制政策が今の医療崩壊を招いた。今度は金儲けのために、また医療を食べ物にするのだろうか。いくら経済情勢が厳しいからといっても、やって良いことと悪いことがある。なんと“さもしい”国になってしまったことか。

(小川 修)